

営農 + 金融知識

農業の技術面からの支援が中心だったJAの営農現場で、信用部門の金融知識を加え収益性を高めるなど農家の経営支援を強化する「担い手コンサルティング」の動きが目立ってきました。JA信州うえだの現場を訪ねました。

上田市の北西部、千曲川左岸に位置する川西地区。農事組合法人生産組合GFCは、同地区のほ場整備などをきっかけに、兼業などで手が届きにくくなった稲作作業を請け負う組織として1989年に誕生。2009年に法人化して現在に至っています。受託面積は現在54畝。地区内の水田の3割ほどを耕している計算です。

米の裏作に小麦と大豆を栽培しており、団体名のGFCはGold、Future、Countryの頭文字から、小麦が実る黄金色の麦秋が地域に広がる将来を描きました。しかし、ここ数年は苦しい経営が続いていました。設立メンバーでもある3人の理事、宮崎一男さん、長谷川義明さん、久保田千丈さんは年



春の農作業を前に農機具を点検する

事業継承や次世代の発掘・育成 急務

を重ね、事業の継承も課題になっていました。

農家の高齢化が進み、担い手不足はいよいよ深刻化しています。次代に向けてGFCの活性化は地区にとっても大きな課題です。営農部門からの提案もあり、JA信州うえだとして信用部門を交えた担い手コンサルティング事業に取り組みことになりました。

経営「見える化」

金融部門の担当者を交えての最初の打ち合わせは22年7月。GFCの今後の方向性を聞くことからスタートしました。「なりたいたい姿になるための提案でないとコンサルティング

ングする相手に響きません」と担当者は。

次いでGFCが手掛ける米、小麦、大豆の収支分析。肥料はどのくらい使い、農機具はどのように使ったのか。収穫はどのくらいあり、反収はどうだったのか。その上で、何がどれくらい収益を上げたのか、上げなかったのか。経営の「見える化」という手順です。



GFCの理事（後列左から久保田千丈さん、宮崎一男さん、長谷川義明さん）と経営改善に知恵を絞ったJA信州うえだのコンサルティングチーム（左から金融共済部融資課・堀内翔太さん、営農指導部・高島聖冬さん、西部地区事業部融資課・六川直樹さん）

課題洗い出し品種や手法の改善提案

農繁期で集まる時間が取りにくく、10月までかかって4回の会合を持ちました。営農面では米の反収が県の水準に比べやや低かったため、水田の水管理システムの導入と、米作付け品種の追加などを提案しました。

川西地区は千曲川に注ぐ支流が浦野川一本だけで水田用水はため池に頼る部分が多く、無駄にはできません。管理システムの導入できめ細かな調整を目指しました。

米はこれまでコシヒカリのみでしたが、作業レークの分散を狙って県オリジナル品種の風さやかを導入を勧めました。風さやかは、コシヒカリに比べ出穂期・成熟期がやや遅く、夏場の高温による品質低下も回避しやすいと評判です。

総合事業の強みで支援

チームをまとめるJA信州うえだ金融共済部融資課の西沢浩平課長「度重なる自然災害をはじめ、生産資材の高騰

など農業経営を取り巻く環境は厳しさを増す一方、次世代の経営者を発掘・育成する課題は待ったなしです。担い手コンサルティングを機に、営農指導を担う営農部門と経営分析に取り組む信用部門がいつそう連携を強化し、総合事業としてのJAの強みを最大限発揮した農業者支援に力を注いでいきたい」と



水管理のため導入した水位センサー。水田に設置し、水位や温度を計測。アプリで確認できる

このほか金融面では事業継承に備えて役員借入金に頼っていた支出の調整を適正化するなど財務健全化を進める一方、トラクターの燃料（軽油）の免税制度を案内したり、古くなったコンバインの更新に際して、購入した場合、リースにした場合、それぞれのコストを示すなどの提案もしたそうです。

方向性を再確認

コンサルティングを受けたGFC側はこう受け止めたのでしよう。3人の理事はそれぞれ専業の農家、畜産家として自身の経営も担っているため、第三者の立場からの改善提案は法人としての方向性を再確認するうえでも参考になったと振り返っています。経営改善は始まったばかり。コンサルティングチームは毎年1回は会合を持ち、進行具合を確認しつつアドバイスを続けています。

JAの担い手コンサルティング事業については長野県信連・農業部（☎026・236・2080）へお問い合わせください。



持続可能な地域社会へ
JAは取り組んでいます

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



17 パートナースHIPで目標を達成しよう



食と農で地域に笑顔をつくります
次代につなげる農業・組織・経営基盤の確立

おはようございます

JA中野市 金融共済部 金融推進課
渉外担当 友野 光



キノコと果物の産地である中野市。担当する渉外の基本活動は、単に金融商品のご案内だけでなく、資産形成、相続などお客さまが抱える課題解決の一助になるべくサポートすることだと考えています。現在、新NISAへの関心が高まる中、皆さまの大切な資産を安心してお預けいただくため活動しています。時に孫のような、娘のような距離感で、ささいなことでもお話しさせていただきたいと思ひます。

健康 Q & A

父が前立腺がんでも心配

Q 父親が前立腺がんでも心配です。家族性の遺伝性前立腺がんについて教えてください。（55歳、男性）

A 遺伝性前立腺がんの頻度は、日本では0.7%、欧米では3.1～10%といわれており、それほど高いものではありません。原因遺伝子としてBRCA（ビーアールシーイー）遺伝子が知られています。

前立腺がんは男性ホルモンの影響を受けると増殖します。この性質を利用して、男性ホルモンを抑えることで前立腺がんの進行を抑える治療法を「ホルモン療法」と言います。しかし、ホルモン療法は続けているうちに効かなくなることがあります。この状態を「去勢抵抗性前立腺がん」と言います。

転移がある去勢抵抗性前立腺がんの患者さんでは、BRCA遺伝子に変異があるかどうかを調べることができます。検査は保険適応で方法は2通りあります。採血によって調べる方法と前立腺生検などによりがん組織を採取して調べる方法です。検査の結果、BRCA遺伝子に変異があると判明した場合は、新規の前立腺がん治療薬が使えるようになります。遺伝子変異の陽性率は10～18%程度と言われています。新規の前立腺がん治療薬を使用することで、より長生きできる可能性があります。

遺伝性前立腺がんにみられるBRCA遺伝子の病的な変異は、性別を問わず親から子へ2分の1（50%）の確率で受け継がれます。そのため、お子さんやお孫さんにも、遺伝子変異が受け継がれる可能性があります。ただ、変異が遺伝していた場合でも、必ずがんを発症するわけではないようです。

（JA長野厚生連長野松代総合病院 泌尿器科統括部長 中川龍男）

お知らせボード

★来春の卒業生向け JA長野県グループ採用説明会

県内14のJAおよび連合会（中央会、県信連、全農長野、厚生連、共済連長野）、関係団体が構成するJA長野県グループは来春（2025年）卒業生向けの採用説明会を今春から順次開催しています。詳細は「いいJAん!信州 採用情報ページ」（右のQRコード）をご覧ください。

